



# 与野本町小だより

～かしこい子 心ゆたかな子 たくましい子 助け合う子～  
ニコニコ・しっかり・美しく（本町の心）

2月号

令和8年1月30日

さいたま市立与野本町小学校

## “する側”と“0学期”

校長 小野 圭 司

12月から1月にかけて、兄弟学級による「全校あいさつ運動」を実施しました。これは、児童会の子どもたちが本校の課題として「あいさつ」を挙げ、その改善に向けて「広がるあいさつプロジェクト」として計画・実施したものです。当初はクラスごとに行う予定でしたが、教員からの助言もあり、兄弟学級で取り組む形に変更しました。

この変更はとても良かったと感じています。異学年での交流には大きな意義があります。1年生と6年生、2年生と4年生、3年生と5年生がペアとなって活動しましたが、下級生は上級生に対して「すごいな」という憧れの気持ちを抱き、上級生は下級生のよい手本になろうと自覚をもって取り組んでいたように思います。

振り返りでは、「いつもよりあいさつがよくできた」「これからもあいさつをしっかりしたい」という声が多く聞かれました。一方で、「あいさつをしたけれど返してくれない子もいて残念だった」という感想もありました。普段は私や保護者・地域の皆様にあいさつを“される側”ですが、この活動ではあいさつを“する側”の気持ちを味わうことができたのではないのでしょうか。多くのクラスで「〇〇パーティー」などのレクリエーションが企画されますが、担当の子が計画・運営した際、参加した子が「もっとこうすればいいのに」と不満を漏らすことがあります。しかし、いざ自分が運営する側になると、その大変さを実感することもあります。今回の活動も同じで、実際に“する側”になってみないと分からないことがたくさんあります。

この「全校あいさつ運動」が、児童会のプロジェクト名のとおり「あいさつの広がり」につながることを願っています。もしご家庭や地域で「あいさつが少し良くなった」と感じられることがあれば、この取り組みの成果かもしれません。ただし、よいあいさつが定着するには時間がかかりますので、長い目で見守っていただければ幸いです。

1月8日（木）の第3学期始業式では、子どもたちに次のような話をしました。

今日から3学期が始まりました。4月からは1学期が始まりますが、その前の期間である今は「0学期」とも言えるのではないのでしょうか。例えば、1年生は2年生の0学期、5年生は6年生の0学期、6年生は中学1年生の0学期と考えることができます。このように捉えると、3学期は新しい学年への準備をする学期と言えます。1年生は4月に入学してくる新しい1年生のお手本となれるように、5年生は今の6年生のように最上級生として皆にお手本を示せるように、6年生は中学校の先輩たちに「今年の1年生は素晴らしいな」と思ってもらえるように、それぞれ頑張ってください。

このように、3学期はその学年のまとめの学期であると同時に、次の学年への準備の学期でもあるということを伝えました。

今回の“する側”の経験や、3学期を“0学期”と捉える考え方が、本校の子どもたちのさらなる成長につながることを願っています。ご家庭や地域でも、“される側”だけでなく“する側”の経験を積ませたり、少し先を見通して準備する姿勢を育んだりしていただければ幸いです。今後ともご理解とご協力をよろしくお願いいたします。